

資料渉猟余話

その93

私は以前、本欄で「柳原白蓮と飯田下茶の間の話題になっ

た。その翌年、郷土誌『伊那』に「伊那

谷の柳原白蓮(通巻第一〇四四号・伊那

史学会発行)を書き、その詳細を発表した。

それより先、平成二十六年のNHK朝

の連続テレビ小説「花子とアン」で、この柳原白蓮(ドラマでは仮名)が大き

学び、竹柏園門下の才媛と謳われた女流歌人で、歌集に『踏

絵』『幻の華』『流転』等がある。いわゆる「白蓮事件」で騒がれたが、愛を貫いた歌人である。

一枚の写真から④

柳原白蓮の天龍峡来遊

鎌倉 貞男

白蓮は、戦争でた

った一人の愛息(香織)を失ったことか

ら、戦争の無益と世

ある。従って、二人は叔母と姪の関係になる。

これら二人を飯田下伊那に招いたのは、塚平義郎である。氏は終戦後、国民の思想・道徳が荒

廃したことを憂い、何か文化的な活動をしようと考え、岐阜市の知人酒井正夫と

図って白蓮を下伊那に招聘した。そのために、事前に関係者

と綿密な打合せを行い、周到な計画を練った。

当初の予定では、下伊那南部の村を済まして飯田や天龍峡



柳原白蓮(前列中央)を迎えて

たが、不都合の地区

が出て、結局、一日

観光協会や福祉事務所が後援した。さらに地方紙「天龍文化新聞」(清水源一社長)も後援した。ど

の地区も、午後一時から五時頃まで行われ、座談会や席上揮毫もあつてなかなか盛況だったらしい。

各会場では、記念の写真撮影がされたよう

で、今までに南宮峡・竜丘・平岡の

写真を手入している。今回、天龍峡のものが発見されたので、ここに掲載する。

思うに、これは同年七月二日から三日の写真であろう。場所

(故人敬称略)